

自主自律

Ad : 〒844-0011 佐賀県西松浦郡有田町岩谷川内3-6-1
 Tel : 0955-43-2291 FAX : 0955-43-4346
 E-mail : arita-j@education.saga.jp
 HP : <https://www.education.saga.jp/hp/arita-j/>

～ 生徒会長が決まりました ～

12月8日(木)に令和5年度の有田中生徒会を引っ張る生徒会長の立会演説会と投票がありました。立候補したのは、下の5名です。演説会はまず責任者の応援演説、そして立候補者による演説が行われました。とにかく演説の内容、態度が素晴らしく、これまで見た中で1番と言えるほどの演説会でとても感動しました。

投票の結果、見事当選したのは小松美織さんです。これから1年間、小松生徒会長を中心に、今の生徒会のいいところを受け継ぎつつ、新しい風を吹かせて欲しいと期待しています。



立会演説会で熱く公約を語った立候補の5人

立候補者	選挙公約
筒井 志穂	絆 ～他学年との交流が活発な有中へ～
小松 美織	校則があっても楽しい学校 ～スマイル100倍 みんなでつくる有中へ～
西山 魁	一緒懸命 ～一丸となり築きあげる最高の生徒会活動～
森 智那	有中生皆で創りあげる生徒会
淵上 舞華	共に創る ～一人一人が自主性をもって築きあげる有中～

～ 有田工業高校とのコラボで、デザイン科作品を展示中です～

今年度、有田工業高校が県のコラボレーションスクールに認定され、近くにある有田中学校がこれまで以上に連携することになりました。ちょうど3年生の三者面談が始まった時期で、親子で作品を見る光景がありました。その中で、有田中卒業生の作品もいくつか展示され、身近に感じていました。また、近くで見ていた生徒の感想には、「すごくレベルが高い」や「本当の写真のようだ」など高校生のレベルの高さを肌で感じたようです。

有田工業高校との連携の内容としては、以下のことを実施します。

- ①陶芸教室に、有田工業デザイン科、セラミック科の先生、生徒に来ていただいて指導していただく。
- ②有田工業デザイン科の先生と生徒により、本校美術部に対して指導をしてもらう。
- ③今まで近くで遠かった有田工業のことをもっと身近に感じてもらうために、デザイン科の生徒作品や定時制の紹介コーナーを中央廊下や3年廊下に展示し、今後の進路につなげる。



感心しながら作品を鑑賞する生徒

～ 昭和50年度卒業生から寄付をいただきました ～

11月29日（火）に昭和50年度卒業生の代表4名（幹事の蒲地桃子様他3名）の皆様が、寄付の贈呈のために来校されました。思いがけない申し出に、ありがたい気持ちと母校への熱い思いに胸が熱くなりました。

今年度2回目の寄付となりました。1回目は、会議用の長机を購入させていただきました。今回は、体育館で使用する儀式用のパイプ椅子が老朽化していますので、新しく購入させていただく予定です。卒業式でお披露目できるかと思えます。1年で2回も卒業生の皆様から寄付をいただき、有田中学校を代表して心から御礼申し上げます。



昭和50年度卒業生代表の皆様

～ 令和4年度 税の作文コンクールで小代結愛さんが入賞 ～

毎年夏休みの課題として3年生に出される「税の作文」ですが、今年度は伊万里市、有田町からたくさんの募集があった中で、3年生の小代結愛さんが優秀賞に選ばれ、有田町長松尾佳昭様より表彰されました。



松尾町長から表彰される小代結愛さん

～ R6年度から新制服を導入します ～

先月のPTAの役員会でもお知らせしましたが、令和6年度より今の制服を新しい制服に一新します。

有田中と西有田中合同で制服検討委員会を立ち上げ、来年1年をかけてじっくり話し合い、よりよい制服を目指す予定です。今年度より、伊万里市内では数校が制服を変更し、指定された制服の中から自分に合ったタイプの制服をこれまでの男子用、女子用という形式にはとらわれず、自由に着て登校しています。本校でも、伝統を重んじつつ多様性への配慮、新制服の機能性の向上、価格やサービス面での向上などの観点から変更することにしました。

～ 佐世保高専推薦入試(12/24)から、ついに入試がスタート ～

例年なら、1月中旬から始まる高校の入試ですが、今年度の入試は半月以上早くなりました。これに併せて面接の練習も早く始めています。特に、推薦入試は個人面接が行われることが多く、集団面接とは違って緊張感は段違いです。主な質問としては、「志望の動機」、「高校で頑張りたいこと」、「中学校で頑張ったこと」、「自己PR」などです。短い時間の中で、自分のいいところやこの学校で学びたいという熱い気持ちを伝えなくてはなりません。3年生の皆さん、週末の仙台の大会で羽生結弦さんが言っていた



「緊張するのは当然、緊張してもその都度また強くなる」を信じ、心地よい緊張感の中で、正面から堂々と勝負してきてください。